

作品鑑賞のヒント

学芸員 佐川美術館
藤井 康恵



美術館で展示作品の横に添えられているキャプション。作品にとって名札のようなものであり、鑑賞者にとって作品を理解するヒントにもなります。

一般的にキャプションには作品のタイトル、作者、制作年代、素材や制作された技法などが記されていますが、作者や制作年代からは、その時代に流行した様式やその作家の作風の変遷などを知ることができません。

一方、素材や技法に関しては予備知識が必要な場合があります。例えば、日本画の場合、絹に絵具で描かれた作品は「絹本着色」と記され、和紙などの紙に墨一色で描かれた水墨画は「紙本墨画」と記されます。

ほかにも仏像彫刻などの木彫作品では「木造漆箔」や「木造載金」といった表記を目にすることがあります。木造は言うまでもなく木で造られていることを示していますが、「漆箔」は木彫の表面全体を漆でコーティングをした上に、さらに金箔を貼り合わせていることを表し、「載金」は焼き合わせた金箔を糸のように細く切り、木彫の表面に貼り付け、部分的に線を描くように文様を表します。

このように、一見聞き慣れない専門用語ですが、作品を理解するためには欠かせない情報がキャプションには記されているのです。

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話[(585)7800]でお問い合わせください。

いつだって好奇心
手を伸ばせば
そこに本

子どもの読書活動

市では、子どもたちの本との関わりがさらに良いものになるよう「子ども読書活動推進計画(第3次)」を策定しました。

随時、読書活動推進計画の内容について紹介します。

図書館社会教育課 ☎・☎(582)1142 ☎(581)2733

質問 中高生が本を好きになるために、どんなことをしているの？

答 市立図書館で中高生サポーターが活躍しています



中高生の読書に触れる機会を増やすために、市立図書館ではティーンズコーナーを設置しています。ティーンズコーナーでは、中高生サポーターがおすすめ本を紹介したり、ポップを作成して本の魅力を伝えたりしています。

現在中高生サポーターは約15人おり、毎月応募がある人気ぶりです。中高生サポーターは、ポップ作りなどを通して自分の好きな本を伝える面白さや本の魅力に触れる楽しさを感じながら、意欲的に取り組んでいます。すてきな工夫でいっぱいティーンズコーナーに、ぜひ足を運んでみてください。

★中高生サポーターのコメント：映画の元になった本なら読みやすいのでぜひ読んでみてください。本は作者や主人公の気持ちになって読むと、その話に入り込めるとても楽しいのでやってみてください。